

プロンプトの終焉と「ループエンジニアリング」：知財業務の次世代モデル

構造的転換：プロンプトからループへ



「問いかけ」から「自律サイクル」の設計へ
単発の指示ではなく、AIが「行動と検証」を反復する
ループ構造の設計が価値の源泉となります。



国内特許出願件数が
前年比約2.7倍に急増

2025年12月、AIによる業務加速の影響とみられる
出願圧力が制度レベルで顕在化しています。

モデル（頭脳）より
「ハーネス（基盤）」が重要に

ツール接続やログ監査などの周辺基盤（ハーネス）
が、AIモデル単体以上の性能差を生む時代です。



周辺基盤（ハーネス）

知財人材に求められる新たな役割



「プロンプト職人」から「ループ設計者」へ
評価基準（eval）の設計や、業務をAIと人間に分解する
「設計能力」が新たなコアスキルとなります。



60時間



25時間

先行技術調査の工数を
60時間から25時間へ短縮

調査・生成・自己検証のループ化により、
実務の大幅な高速化と効率化が可能に
なります。



最終責任は常に「人間（弁理士）」にある
日本弁理士会指針に基づき、AI出力の正確性確認と
最終責任は人間が負う原則が維持されます。